

檜山海域のスケトウダラ資源状況と漁期前調査結果速報

北海道立函館水産試験場
檜山南部地区水産技術普及指導所

スケトウダラ漁期前調査結果の概要（檜山海域）

- ・ 檜山海域全体の魚群反応量は前年同期を1～2割下回った。
- ・ 魚群反応は、奥尻島の東側，松前小島堆，奥尻堆など沖合域で比較的強かったが，沿岸部では弱かった。
- ・ 漁場となる沿岸域の水温は前年同期よりも高かった。

近年の檜山海域のスケトウダラ漁況と，函館水試調査船金星丸で実施した実施したスケトウダラ漁期前調査結果をお知らせします。

1．近年の檜山海域の漁況

・ 檜山海域の漁獲量

2006年度漁期の檜山管内における延縄漁獲量は5,273トで，2005年度（7,252ト）を27%下回りました。近年の檜山海域の漁獲量は，年により増減があるものの，1993年度（17,770ト）をピークに減少傾向となっています（図1）。

・ 漁獲物の尾叉長および年齢組成

2006年度の尾叉長組成の範囲は前年とほぼ同様の31cm～51cm台で，40cm～45cm台を中心に漁獲されました（図2）。2002年度に4歳で加入した1998年級群は，近年では比較的豊度の高い年級群と考えられていますが，その資源量は徐々に減少し2006年度には1999年級群（7歳）が漁獲物の主体となりました（図2）。

2．金星丸による2007年度漁期前調査結果（10月10日～18日に実施）

・ 魚群反応量と分布

檜山海域全体の魚群反応量は前年同期を1～2割下回りました。また，2007年の魚群反応は，前年と同様に奥尻島の東側，松前小島堆，奥尻堆など沖合域で比較的強く，沿岸域では弱くなっていました（図3）。ただし，相沼沖の産卵場周辺では強い反応がみられました。

・ 水温

漁場となる檜山沿岸域の水温状況は，乙部沖（42°00N），江差沖（41°50N），上ノ国沖（41°40N）ともに前年同期よりも水温が高く，特に水深50m～300mで高くなっていました（図4）。このまま水温が高い状態が続けば，今年度の産卵適水温層（2～4）は前年よりも深くなり，スケトウダラの分布水深も前年より深くなる可能性があります。

・ 漁獲物の大きさ

相沼沖において中層トロールによる漁獲調査を行いました。その結果，スケトウダラの魚体組成は尾叉長30～51cmで，41cm台が多く漁獲されました（図5）。

3．現在の資源状態と2007年度の漁況見通し

漁期前調査の魚群反応量が前年同期を下回ったことから，今年の漁期前におけるス

ケトウダラ分布量は前年を下回っていると推測されます。また、漁期前調査時には漁場となる檜山沿岸域の魚群反応が弱く、さらにスケトウダラの分布水深は前年より深くなることが予想されるため、漁期前半の漁況は低位で推移する可能性が高いと思われます。一方、奥尻堆、松前小島周辺などには比較的強い魚群反応がみられ、これらは今後檜山沿岸域の産卵場に移動してくると考えられることから、漁期中盤から後半にかけては漁獲量が上向くことが期待されます。

今年の漁獲物は、前年に引き続き1999年級群(8歳魚)が主体になると考えられます。

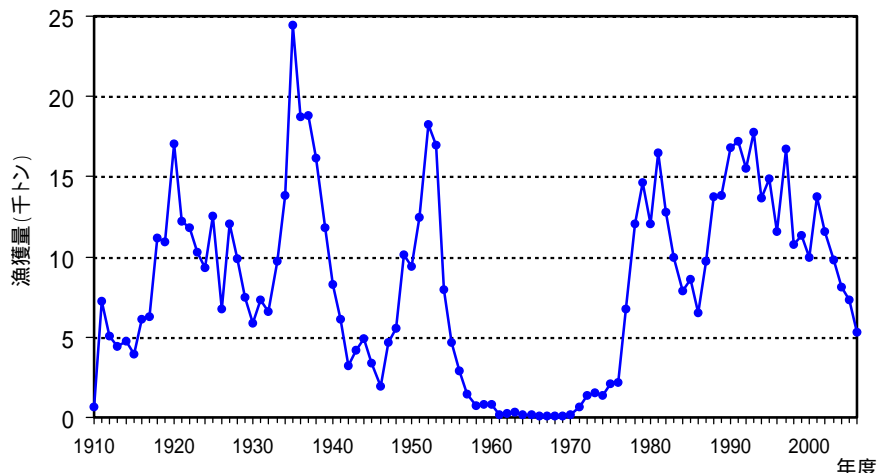


図1 檜山海域におけるスケトウダラ漁獲量の経年変化

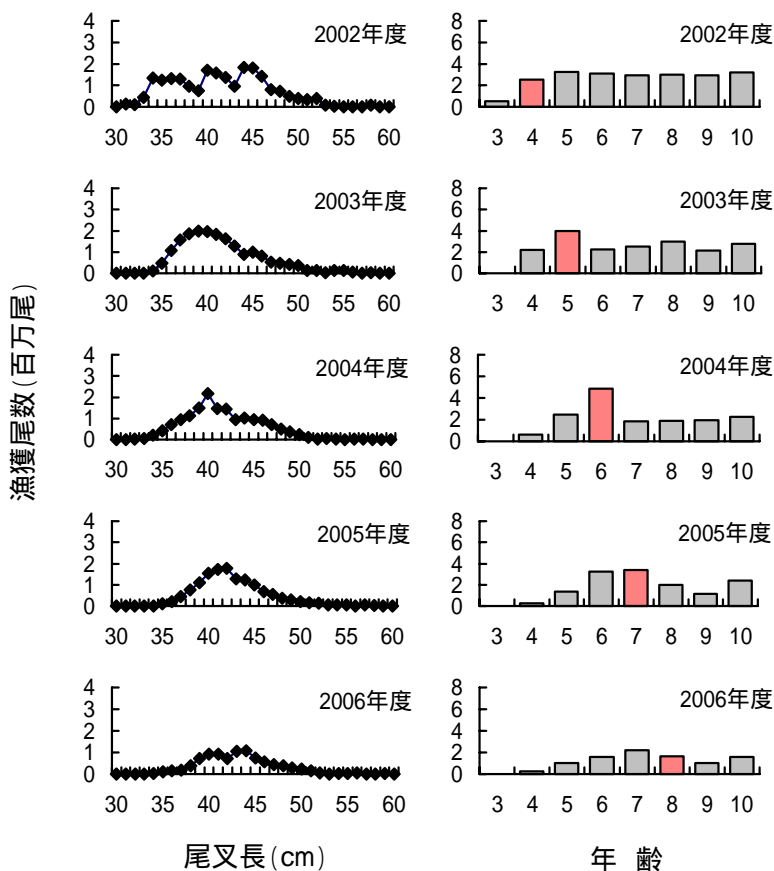


図2 檜山延縄漁獲物の尾叉長組成(左)と年齢組成(右)

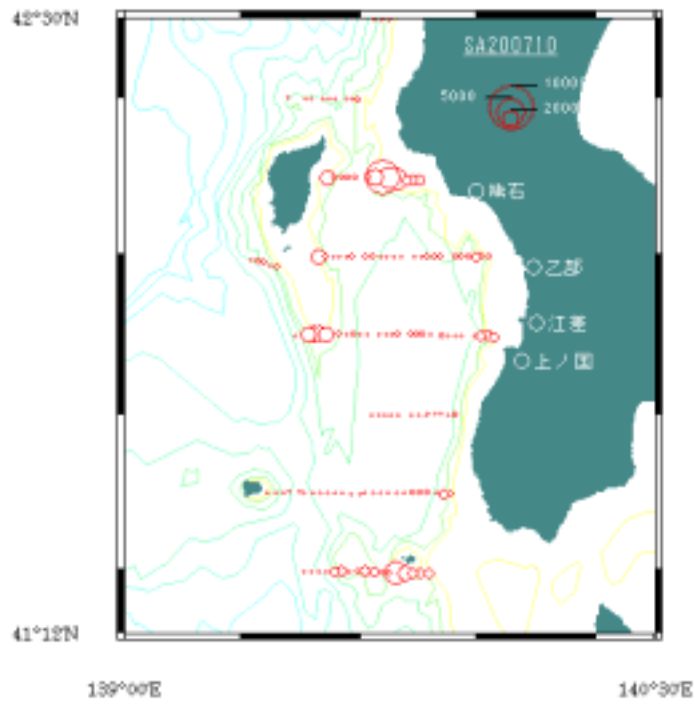


図3 漁期前の魚探反応 (S_A) の水平分布

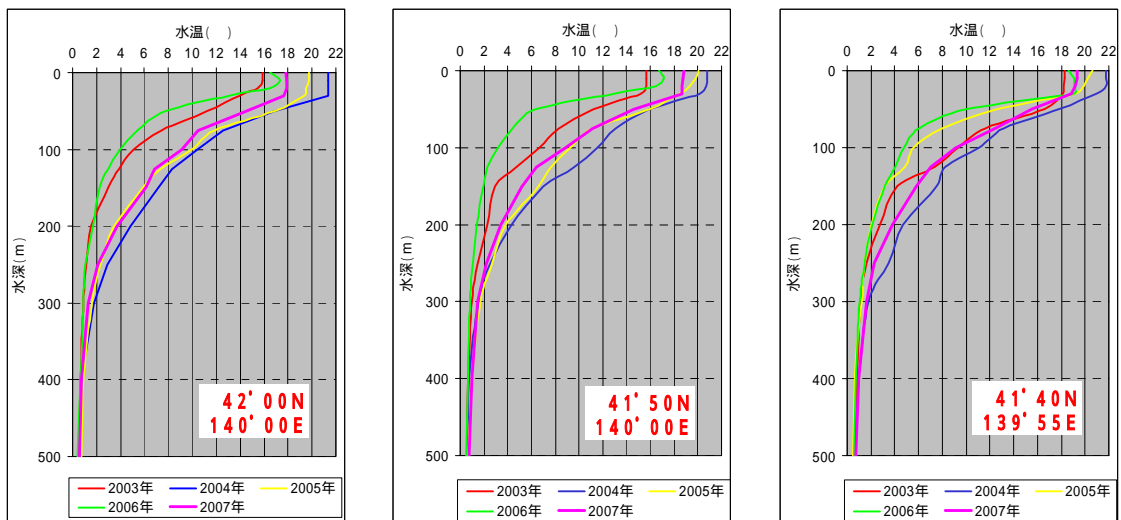


図4 乙部沖(左), 江差沖(中), 上ノ国沖(右)の水温分布

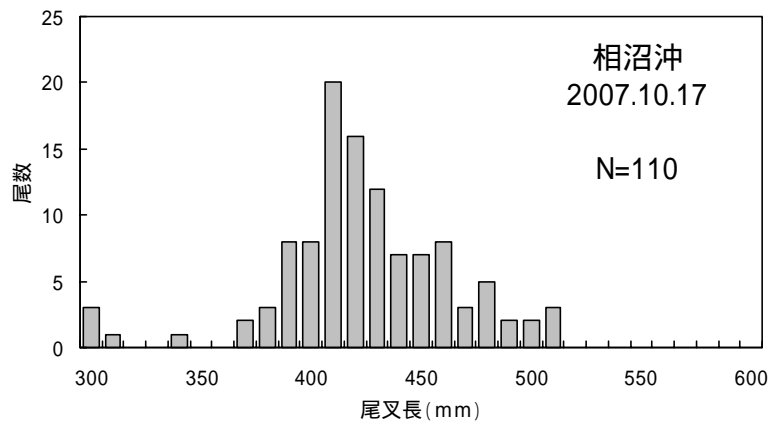


図5 相沼沖で漁獲したスケトウダラの尾叉長組成